

戸後期小説が江戸という都市で主として発行されたいたために、江戸の方が出出版活動が盛んであった。

一、京都に出版文化博物館を江戸時代の京都は、日本で出版の最も盛んであった都市である。江戸後期に至って、新刊書の出版点数こそ江戸にトップの座をゆけたものの、京都の本屋（出版者）は重版の書籍を数多く発行しているから、出版部数という面から考えると、京都は江戸をはるかに上回っていたと見てよろしいのである。日本文学史の書物の上では、江戸後期小説が江戸という都市で主として発行されたいたために、江戸の方が出出版活動が盛んであった。

時代の京都の本屋について書いてみたいと思う。本説に入る前に次のことの一言記しておきたいのである。というのは、京都に出版文化の博物館というような施設をつくることの提唱である。

しばらく続きものとして、江戸時代の京都の本屋について書いてみたいと思う。本説に入る前に次のことの一言記しておきたいのである。というのは、京都に出版文化の博物館というような施設をつくることの提唱である。

まえがき

しぶらく続きものとして、江戸時代の京都の本屋について書いてみたいと思う。本説に入る前に次のことの一言記しておきたいのである。というのは、京都に出版文化の博物館というような施設をつくることの提唱である。

一、京都に出版文化博物館を

江戸時代の京都は、日本で出版の最も盛んであった都市である。江戸後期に至って、新刊書の出版

点数こそ江戸にトップの座をゆけたものの、京都の本屋（出版者）

は重版の書籍を数多く発行しているから、出版部数という面から考

えると、京都は江戸をはるかに上

回っていたと見てよろしいのである。日本文学史の書物の上では、江

戸後期小説が江戸という都市で主

として発行されたいたために、江

戸の方が出出版活動が盛んであった。

京都の本屋が非常に多く板権（出版権）と販売権をもっていたので、それらの多くは京都の出版物なのである。それに、教科書や教訓書なども京都の主要な出版図書であった。徳川幕府によって認められていたこれらの出版権が明治政府に公認されなくなったので、近代に至つて京都の出版が衰退したのである。

江戸時代から引続いて

京都には江戸時代から引続いて営業活動をおこなっている本屋が何軒もある。それらは、かりに幕末に開業したとしても百年を超える歴史をもつ店である。そのよう

な百年以上も続いた本屋を何軒も

もっている都市は日本では京都だけなのだから、出版文化について人々の興味や関心を抱いてもらう

とか図書の部が切抜かれるとかいう反文化的行動が平氣で横

行することになる。

京都の本屋が非常に多く板権（出版

権）と販売権をもっていたので、

それらの多くは京都の出版物なのである。それに、教科書や教訓書なども京都の主要な出版図書であった。徳川幕府によって認められていたこれらの出版権が明治政府に公認されなくなったので、近代に至つて京都の出版が衰退したのである。

江戸時代から引続いて

京都には江戸時代から引続いて

営業活動をおこなっている本屋が

何軒もある。それらは、かりに幕

末に開業したとしても百年を超

える歴史をもつ店である。そのよう

な百年以上も続いた本屋を何軒も

もっている都市は日本では京都だけ

なのだから、出版文化について

人々の興味や関心を抱いてもらう

とか図書の部が切抜かれるとか

いう反文化的行動が平氣で横

行することになる。

京都の本屋が非常に多く板権（出版

権）と販売権をもっていたので、

それらの多くは京都の出版物なのである。それに、教科書や教訓書なども京都の主要な出版図書であった。徳川幕府によって認められていたこれらの出版権が明治政府に公認されなくなったので、近代に至つて京都の出版が衰退したのである。

江戸時代から引続いて

京都には江戸時代から引続いて

営業活動をおこなっている本屋が

何軒もある。それらは、かりに幕

末に開業したとしても百年を超

える歴史をもつ店である。そのよう

な百年以上も続いた本屋を何軒も

もっている都市は日本では京都だけ

なのだから、出版文化について

人々の興味や関心を抱いてもらう

とか図書の部が切抜かれるとか

いう反文化的行動が平氣で横

行することになる。

# 近世京都の本屋（一）

## 宗政五十緒

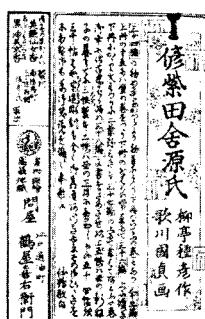
近世京都の本屋（一）

宗政五十緒

まえがき

まえが





(上) 講紫田舎源氏 文政12年刊  
(下) 曾根崎心中 (宇治加賀様正本) 元禄頃刊

『丹波作待夜のこむろぶし』  
『冥途の飛脚』  
『夕霧阿波鳴渡』  
『大経師昔曆』

『加賀様』  
『山本九兵』  
『寺町通五条の河野道清』  
『日本古書通信社刊』  
『来社刊』  
『日本近世文苑の研究』(未編)

○一九二九年生。  
○京都大学大学院文学研究科(国語学国文学専攻)博士課程修了。  
○龍谷大学(文学部)教授(国文学)  
○主要編著書  
著書「西鶴の研究」(未来社刊)  
、『日本近世文苑の研究』(未編)

この鶴屋の江戸店も、同じく鶴屋喜右衛門といい、大伝馬町三丁目に店があつた。のち、通油町に移る。江戸店も本店同様に淨瑠璃本を出版し販売しているが、江戸で出来た大衆相手の絵草紙(地本という)を多く出版し、地本問屋として江戸後期には有名な大店となつた。江戸の出店が独立して一店舗となつた例である。この鶴屋は小川氏で、仙鶴堂と号し、山東京伝や瀧沢馬琴、柳亭種彦、式亭三馬、十返舎一九などの小説類を

長岡喜右衛門と記載されているから、長岡氏があつたことが知られる。この鶴屋の江戸店も、同じく鶴屋喜右衛門といい、大伝馬町三丁目に店があつた。のち、通油町に移る。江戸店も本店同様に淨瑠璃本を出版し販売しているが、江戸で出来た大衆相手の絵草紙(地本という)を多く出版し、地本問屋

山本も鶴屋と同様に正本屋とも称している。もとは草紙屋といつたらしく、寛永頃には西洞院通長者町、すなわち、御所の西の方にあって、お伽草子の類を販売したり、また、出版していたようである。一条通寺町西入る北側に移つたのは明暦頃らしい。だから、二

『けいせいの反魂香』  
『源五兵衛おまん』  
『薩摩歌』  
『曾根崎心中』  
『出世景清』  
『凱陣八島』  
『心中二枚絵草紙』  
『用明天皇職人人鑑』  
『堀川波鼓』  
『心中井井筒』  
『心中刃は水の』  
『丹波作待夜の』  
『こむろぶし』  
『冥途の飛脚』  
『夕霧阿波鳴渡』  
『大経師昔曆』

『夕霧阿波鳴渡』 同  
『曾根崎心中』 同  
『鎌の権三重離子』 同

『長岡喜右衛門』 といふ本屋は、むしら、長岡氏があつたことが知られる。

鶴屋は明治初年の文書を見ると長岡喜右衛門と記載されているから、長岡氏があつたことが知られる。

この鶴屋の江戸店も、同じく鶴

屋喜右衛門といい、大伝馬町三丁目に店があつた。のち、通油町に

移る。江戸店も本店同様に淨瑠璃

本を出版し販売しているが、江戸で出来た大衆相手の絵草紙(地本

という)を多く出版し、地本問屋

を開いてお互いに繁栄していた

のだから。鶴屋にふれると、同町の山本九

兵衛に筆を及ぼすのが順序である

う。この町に二軒の淨瑠璃本屋が

ロングベストセラーである。

鶴屋にふれると、同町の山本九

## 古本よもやま話(四)

若林正治

本屋として書籍目録に興味を持つのは当然で、大書店の販売目録は直ちに古本の評価、売価の参考になる。種々の展観目録、藏書目録等は類書を調べるのに便利である。許りでなくお客様に対しても乗れる訳である。今もお元気な時代やさんを始め来利屋とか、亡くなつた大津の金元君等の目録でせつせと展観目録等を蒐めたものである。江戸時代の書目については古く秃氏先生の書目集覽二冊、最近慶応でやられた書林編集の書目集四冊本があるが矢張り元の姿のものがほしい。五の目録元録五年。三の目録(宝歴四年)四の目録(享保十四年)。又之等を集大成した合類書籍目録十二冊等は時たま販売目録でみかける事があるが、当時とても高価で手が届かない。まして寛文、天和とかの目録はめつたにお目にかれない。此の辺の事は今年の三月号の古書通信に書いた通りである。此の裏付けとなる記事が横山さんの「書物捜索(下)」に出て来る。何と云つても一番勢いのは延宝三年江戸版の三冊本であらふ。鹿田静七氏、杉

浦丘園氏のコレクションにも之は含まれてゐなかつた。私は之を小津氏西莊文庫の入札会で手に入れ事が出来た。奪本をバラ々にして同人に頒け、時に貼り交帖を作ると云ふ事は昔から行はれてゐる。秃氏先生の古桙残葉、古活字版拾葉、稀本雰葉集、と數はあるが明治末年東京で主として集古の同人が行つたものが何と云つても一番巻であります。王屑会と称し集を玉屑集と名付く。会員凡そ十一名。三村清三郎(竹清、岡書院)の話)林若樹(集古初期の編者)吉田久兵衛(浅倉屋氏)、横尾勇之助(文行堂氏)内田寅(魯庵)、幸田成友(露伴の舍弟、大阪市史編者)加賀豊三郎(翠溪、洗雲亭主)藏書は日本書館に入る岡田村雄(古錢、商業蒐集横本「紫艶」著者)赤松酒舎(後川瀬氏に依り古活字版蒐集)大野酒竹(俳書蒐集藏書東大図書館に入る)岡田村雄(古錢、商業蒐集横本「紫艶」著者)赤松範一の諸氏である。一年余十二回を以つて納会としその記念に各自、自慢の書物を持ちより記録を取り一冊の書物となす。巻末に毎

回配布の雑葉の書名卷数を記し百五十部を取り印刷す。名付けて、「従吾所好」と云ふ。明治45年4月発行。編者は林若吉となつてゐる。此の玉屑集を市場で見たのは後にも先にも只の一回だけである。大阪日本橋にあった日本橋クラブで書好会は例会があつた。天牛の二階の様にだつて広い事はなく小ぢんまりとした市場であつた。その時之はえらいものが出て来たと思つたが若輩の私にはてんで相場もわからず何でも六十余円で杉本(先代)さんが落札されたと覚えである。従吾所好も珍品で今一寸みた昭和六年のたつみやの目録に二十円で出でてゐる。紅毛雜誌が五円とある。巻末の雑葉の目録を見ると毎回十点宛。嵯峨本では伊勢、謡曲はもとよりつれぐ、平家、保元、五山版、活字版、丹緑本。

彩画職人部類の天明版、万治の伊曾保等々。各自持ち寄りの品はその人の性格を表はしてゐる。幸田先生は五山版。林若樹は書目廿一種出品してゐる。今一寸手許に林若樹の売立目録が見当らないが、昭和十三年に行はれた此の人札会以後と思はれる。何でも二日で終らぬが、當時とても高価で手が届かない。まして寛文、天和とかの目録はめつたにお目にかれない。此の辺の事は今年の三月号の古書通信に書いた通りである。此の裏付けとなる記事が横山さんの「書物捜索(下)」に出て来る。何と云つても一番勢いのは延宝三年江戸版の三冊本であらふ。鹿田静七氏、杉

樹は確か医者の林洞海の子孫で身體が弱かつたので学校を止め父祖の遺産で勝手氣氛に生涯を過され

た由。しようちゅう本屋、道具屋を廻つて居られたのでせう。著書としては自作の狂歌を集めた四六半截の二冊本がある。丈と思ふ。亡くなつてから大東出版社から三田村鷹魚の序付きで、「集古隨筆」と云ふのが一冊出でる。當時私は雄松堂新田氏(現会長)と隣り合わせであった。少し先に巖松堂波多野氏がおられた。文久二年は他一点と写本の辞書と三點一緒に出て來た。奥平氏中津版の蘭和辞書「バスターード」はいかなる人が何と云つても一番巻であります。王屑会と称し集を玉屑集と名付く。会員凡そ十一名。三村清三郎(竹清、岡書院)の話)林若樹(集古初期の編者)吉田久兵衛(浅倉屋氏)、横尾勇之助(文行堂氏)内田寅(魯庵)、幸田成友(露伴の舍弟、大阪市史編者)加賀豊三郎(翠溪、洗雲亭主)藏書は日本書館に入る岡田村雄(古錢、商業蒐集横本「紫艶」著者)赤松酒舎(後川瀬氏に依り古活字版蒐集)大野酒竹(俳書蒐集藏書東大図書館に入る)岡田村雄(古錢、商業蒐集横本「紫艶」著者)赤松範一の諸氏である。一年余十二回を以つて納会としその記念に各自、自慢の書物を持ちより記録を取り一冊の書物となす。巻末に毎

回配布の雑葉の書名卷数を記し百五十部を取り印刷す。名付けて、「従吾所好」と云ふ。明治45年4月発行。編者は林若吉となつてゐる。此の玉屑集を市場で見たのは後にも先にも只の一回だけである。大阪日本橋にあった日本橋クラブで書好会は例会があつた。天牛の二階の様にだつて広い事はなく小ぢんまりとした市場であつた。その時之はえらいものが出て来たと思つたが若輩の私にはてんで相場もわからず何でも六十余円で杉本(先代)さんが落札されたと覚えである。従吾所好も珍品で今一寸みた昭和六年のたつみやの目録に二十円で出でてゐる。紅毛雜誌が五円とある。巻末の雑葉の目録を見ると毎回十点宛。嵯峨本では伊勢、謡曲はもとよりつれぐ、平家、保元、五山版、活字版、丹緑本。

彩画職人部類の天明版、万治の伊曾保等々。各自持ち寄りの品はその人の性格を表はしてゐる。幸田先生は五山版。林若樹は書目廿一種出品してゐる。今一寸手許に林若樹の売立目録が見当らないが、昭和十三年に行はれた此の人札会以後と思はれる。何でも二日で終らぬが、當時とても高価で手が届かない。まして寛文、天和とかの目録はめつたにお目にかれない。此の辺の事は今年の三月号の古書通信に書いた通りである。此の裏付けとなる記事が横山さんの「書物捜索(下)」に出て来る。何と云つても一番勢いのは延宝三年江戸版の三冊本であらふ。鹿田静七氏、杉

樹は確か医者の林洞海の子孫で身體が弱かつたので学校を止め父祖の遺産で勝手氣氛に生涯を過され

た由。しようちゅう本屋、道具屋を廻つて居られたのでせう。著書としては自作の狂歌を集めた四六半截の二冊本がある。丈と思ふ。亡くなつてから大東出版社から三田村鷹魚の序付きで、「集古隨筆」と云ふのが一冊出でる。當時私は雄松堂新田氏(現会長)と隣り合わせであった。少し先に巖松堂波多野氏がおられた。文久二年は他一点と写本の辞書と三點と一緒に出て來た。奥平氏中津版の蘭和辞書「バスターード」はいかなる人が何と云つても一番巻であります。王屑会と称し集を玉屑集と名付く。会員凡そ十一名。三村清三郎(竹清、岡書院)の話)林若樹(集古初期の編者)吉田久兵衛(浅倉屋氏)、横尾勇之助(文行堂氏)内田寅(魯庵)、幸田成友(露伴の舍弟、大阪市史編者)加賀豊三郎(翠溪、洗雲亭主)藏書は日本書館に入る岡田村雄(古錢、商業蒐集横本「紫艶」著者)赤松酒舎(後川瀬氏に依り古活字版蒐集)大野酒竹(俳書蒐集藏書東大図書館に入る)岡田村雄(古錢、商業蒐集横本「紫艶」著者)赤松範一の諸氏である。一年余十二回を以つて納会としその記念に各自、自慢の書物を持ちより記録を取り一冊の書物となす。巻末に毎

回配布の雑葉の書名卷数を記し百五十部を取り印刷す。名付けて、「従吾所好」と云ふ。明治45年4月発行。編者は林若吉となつてゐる。此の玉屑集を市場で見たのは後にも先にも只の一回だけである。大阪日本橋にあった日本橋クラブで書好会は例会があつた。天牛の二階の様にだつて広い事はなく小ぢんまりとした市場であつた。その時之はえらいものが出て来たと思つたが若輩の私にはてんで相場もわからず何でも六十余円で杉本(先代)さんが落札されたと覚えである。従吾所好も珍品で今一寸みた昭和六年のたつみやの目録に二十円で出でてゐる。紅毛雜誌が五円とある。巻末の雑葉の目録を見ると毎回十点宛。嵯峨本では伊勢、謡曲はもとよりつれぐ、平家、保元、五山版、活字版、丹緑本。

彩画職人部類の天明版、万治の伊曾保等々。各自持ち寄りの品はその人の性格を表はしてゐる。幸田先生は五山版。林若樹は書目廿一種出品してゐる。今一寸手許に林若樹の売立目録が見当らないが、昭和十三年に行はれた此の人札会以後と思はれる。何でも二日で終らぬが、當時とても高価で手が届かない。まして寛文、天和とかの目録はめつたにお目にかれない。此の辺の事は今年の三月号の古書通信に書いた通りである。此の裏付けとなる記事が横山さんの「書物捜索(下)」に出て来る。何と云つても一番勢いのは延宝三年江戸版の三冊本であらふ。鹿田静七氏、杉

樹は確か医者の林洞海の子孫で身體が弱かつたので学校を止め父祖の遺産で勝手氣氛に生涯を過され

## 木版画古今東西(下)

木版画の摺りの技術は仕上りの出来不出来の大部を決めてしまいます。多少の彫りの拙さは摺に於いてカバーされます。又摺師が部分を手直しすることは常で、ある程度の彫の技術も備えていなければなりません。

版画は殆んど奉書を用います。昭和三十年代頃迄は良質の奉書が漉かれていましたが近頃は良質の原料も漁手も非常に少なく版元さんは紙を探すのに一苦労です。比較的いいものでも採算が合わない位高価なものになっています。

摺師にとって最も大切な道具はパレンです。パレンは竹の皮に包まれていますが、中身はパレンの芯とあて皮に分れ、芯になるものは竹の皮を細く裂いて縫り合せ約35m位に編んだものをさらには三重に縫つたものです。一つ一つの編目が金平糖のようなつぶぶが平均してとがっているのがよいパレンです。この竹の皮の紐をぐるぐると蚊取線香のように巻き、あて皮の中におさめて、竹の皮でつつむとパレンが完成します。パレン作りも三年五年と半抱強い修練のいる仕事で、以前は摺師が自分で作つたものですが、一つ作るにも長い月日がかかり、仕事によ

つては何種類も用いますので、今はパレン裏門の店で仕入れています。五、六年前に私も買ったことがあります、一箇五万円でした。芯だけ三万五千円位いたと思ひます。現在らしいものは十円位はする云うことです。パレンの良し悪しが仕上りにたちまち現れます。昔摺師はパレン一調で何處へ行つても食べて行けたといいます。板前の包丁一本晒に巻いて、と同じことです。

江戸に始まり江戸で発達した浮世絵の摺りは東京の職人のものであつて東京の職人仲間では錦絵を手がけていたということ自体誇りであります。大正頃迄浮世絵は関西にはなじみの薄いもので現在でも東京の職人の方が浮世絵に関しては優れていると云われています。かつて上方にも役者絵を中心とした上方絵と呼ばれたものがありましたが、色合いも違うものです。その最も違う處は、上方絵は胡粉を絵具にませてきれいな中间色を出すところです。胡粉をまぜると絵具のつきがよくなり見た目にも大変きれいに仕上ります。東京の職人に云ふと「胡粉氣の多い絵具は摺りが少々下手でも上手く紙にのつて

ごまかしがきく、淡い桃色等を出します。も胡粉をまぜさえすればすぐ思ひ通りの色がきれいに出る、しかし江戸絵の場合には胡粉を使わず紅を薄めて摺りの技術だけで多様な桃色を出した。透明色で薄く摺るという技術が胡粉を使い出してから大阪の摺師たちの情落の始まりともなった。

京都の木版画の伝統は友禅染めの染色見本や扇絵のぼつとりと厚みのある色出しでこれも胡粉の助けを借り、しかも上方絵より格下で工賃も安い仕事であった。と云われますが大正の頃より京都で発展した近代日本画の複製版画は江戸絵とは全く趣きの異なる素晴らしい出来映えの版画が数多く刊行されています。例えば「上村松園」の宝舟、「柳原紫峰」の花鳥十二月、「内橋鳳」「西山翠障」「富田溪仙」等京都画壇の巨匠達の名品優品の複製版画作品は近代日本の中心地でもあり歴史的風土に培われた気品ある作品の数々です。

写真版の神原紫峰の花鳥十二月は始め紫峰自身版画にすることを大変危惧しておりましたが二年余りの月日を掛けた仕上りを見てその

違う處は、上方絵は胡粉を絵具にませてきれいな中间色を出すところです。それは江戸絵と比べて線も色合いも違うものです。その最も違つた仕事で、以前は摺師が自分で作つたものですが、一つ作るにも長い月日がかかり、仕事によ

の違いは技術の優劣ではなく技法の違いにあるようと思われます。

話は変わりますが現在の複製版画は愛りますが現在の複製版画について見たまま感じたままに述べさせていただきます。

今ここに高見沢版の東海道が二種類戦前版昭和33年版、現在のもの

年版、戦前版に比べてシャープさに欠け絵具は紙にのり切れず、もろもろのごま摺り、色は品が無くぱピンボケといったところです。それでも高見沢版は未だましな方で、他のは総じてこれ以下のものが多く、なんとも淋しい限りです。多少救われるのがアダチ版で現在の状況の下では頑張っておられるのではないかと思うのですがアダチ版は全体にメリハリがない。写真ならではのでは無いでしょうか。この様な凋落振りは前述しましたように材料の低下は元より職人さんの心構えに尽るのではないかと痛切に感じるところです。

一言、初摺り後摺り再版についてある版元さんに聞いた話ですが初摺の枚数は昔から一っぱいといつて二百枚が単位です。それ以上は需用に応じて増摺します。これが後摺りと云われるのですが、なんにがなんでも初摺りが良いとは限らず概ね三・四十枚位から後摺りの百枚位迄のものが摺り手としては調子の出てくるところだそうです。それ以後になると板木が磨滅してきますので悪くなります。又再版の場合も初版を彫った時期と時間が空いてなく同じ摺師の場合には再版の方がよいものが彫れると云われます。



(写真) (右)神原紫峰 秋葉版

250度摺り (左)マチス高

見沢版 300度摺り





本、本、本に埋つての書物談義でまたたく間に半日が過ぎてしましました。運悪く本格的な梅雨で湿気でございました。まだ秘蔵の古地図、版画類があるとの事でしたが残念ながら、

今日は湿気をさけてお目めもじかたしました。またの再会を楽しみにおいとまい

なわす。なまじました。  
(聞き手 前田 司)

たしました。なまじました。  
（聞き手 前田 司）

## 古本用語

は  
バイディング  
正確にはブック  
クバインディング  
グで書物の製本の意であるが、本の内

容より製本・装幀技術を賞する書物蒐集の一つのジャンルの呼び名ともなっている。とくに個人で本を装幀する欧米では重要な分野である。

はこ(函) ブックケースのこと。目録用字として「函入」とか「函欠」と示す。函は日本独特の書物の付隨物で、これの有無で古書価値が左右されることが多い。そもそも中身のホコリ除けのためであろうが、ゴキブリの巣になる場合もあるから要注意。函から本を出す時は、両端を持て静かに下にむけ振り、ひねりなど中身が出てからぬき出すように。

パーチメント 羊皮紙。パピルスにかかる書写材料として紙の時代の到来まで使用された。美しく裝飾された古写本は片葉でも古書価値が高い。

バックナンバー 雑誌の既刊号の

英称であるが、古本界では雑誌資料ものの総称として使用することが多い。バックナンバーの欠本を補うのは、古書探索の中でも難しいもの。當時欠本リストを携帯し、目標の雑誌を見かけたら照合する熱意が必要。

はほん(端本) 全集や叢書ものの一点の呼び方。はんぱ(本)零本とも言い、揃い本に対して価格は格段に安い。全集などはじめから揃いを買わずにこつこつ端本を集めてゆくのも古本蒐集の楽しみ。但し「効き目」と呼ばれる卷を見つけるのが難関。

ばら売り 全集や叢書ものをセットで売らずに分売する売り方。とくに「効き目」が欠けているときなどこうした売り方をする。蔵書の欠本を探すチャンス。

「古文書を読む会」で  
猛勉強はじまる!  
古書業者にとつて古い文献、記録を読み理解出来ることは必須の条件。しっかりと知識をもつていなければうつかり貴重な資料を埋没させてしまうことにもなるし、お客様に対しても信用を失うことになります。

そこで古書研では京都府立大学文学部々長藤井学教授を招いて毎月「古文書を読む会」を開催。より正しい、より深い知識と古文書の読解力をつける勉強をいたしております。業者だけの勉強会ではありますが、皆様にはその内容をこの誌上で「古文書講座」としてご紹介いたします。

開き。古本供養には愛書家の皆様のご不用になつた本を供えていただいて念佛法要を行います。法要の済んだ本はチャリティーオークションで再び別の愛書家の手へ、その純益金は京都市立図書館(現在建設中の)児童図書購入基金として寄贈いたします。皆様のご不用けたら照合する熱意が必要。

はほん(端本) 全集や叢書ものの一点の呼び方。はんぱ(本)零本とも言い、揃い本に対して価格は格段に安い。全集などはじめから揃いを買わずにこつこつ端本を集めてゆくのも古本蒐集の楽しみ。但し「効き目」と呼ばれる卷を見つけるのが難関。

ばら売り 全集や叢書ものをセットで売らずに分売する売り方。とくに「効き目」が欠けているときなどこうした売り方をする。蔵書の欠本を探すチャンス。

## 秋の「古本まつり」

着々準備中!

十一月三日(文化の日)を中心

読料をお払い込み下さい。

次号予告

第四回京都九善古書展示即売会

九月二十八日(日曜休)

は十月十五日発行の予定です

振替用紙通信欄に〇年分購読料と記載下さい。

また会員店へ直接お申し込みいただいても、あるいは左記事務所宛送金(切手代用可)いただいても結構です。

丁印 京都市中京区東洞院六角上ル

京都古書組合内  
京都古書研究会

一編集後記

◎今号より古書研全会員がまわり持ちで編集を行うことになりまし

た。この号は赤尾、石川、井上、前田、三浦の受け持ち。既刊号よ

りガラッと変わった新鮮な誌面をと

思つたものの、結局は今まで通り。

古本屋の頭の硬さを嘆きつつ、一

面ではだからこそこの商売は息長く続くのだと開き直つて出来上り。

◎ところが製作日程に印刷屋さん

の夏休みが入つておらず。かくして十日以上も発行が遅れ、まず大失敗。読者の皆様に深くお詫び申しあげます。

古本屋の頭の硬さを嘆きつつ、一

面ではだからこそこの商売は息長く続くのだと開き直つて出来上り。

◎ところが製作日程に印刷屋さん

御注文は各書店へ

<p>本専門の質屋・買入株式会社 善書堂</p> <p>英語・英米文学研究書専門会社</p> <p>〒602 京都市上京区河原町今出川上ル</p>
<p>今回のサービス品</p>
<p>芥川龍之介全集 岩波書店 昭52 十二冊揃 三六〇〇〇</p>
<p>電話(〇七五)一三一一一七七一</p>
<p>● No.54 No.29迄は研究社英米文学評傳叢書の分売です。</p>
<p>1 ヴィリック「無心と経験の歌」研究 小川二郎 ブレイン「無心と経験の歌」研究 小川二郎 中央図書出版社 昭25 五六〇〇〇</p>
<p>2 英詩から見た和歌形式論 八木又三 製華房 大9 五六〇〇〇</p>
<p>3 ウキリアム・モリス 加田哲一 岩波書店 大13 六〇〇〇〇</p>
<p>4 チョーサー研究 吉田新吾 あほるん社 昭41 二〇〇〇〇</p>
<p>5 SYNGE (シンジ) 藤林秋矢 昭9 四〇〇〇〇</p>
<p>6 CONGREVE (コングレーヴ) 福原麟太郎 昭8 二〇〇〇〇</p>
<p>7 EMERSON (エマソン) 舟橋 雄 昭8 二〇〇〇〇</p>
<p>8 LANGLAND (ラングラン) 西脇順三郎 昭8 二〇〇〇〇</p>
<p>9 CRABBE (クラッブ) 大和資雄 昭9 二〇〇〇〇</p>
<p>10 DICKENS (ディケンズ) 寺西武夫 昭9 五六〇〇〇</p>
<p>11 GOLDSMITH (ゴルズミス) 岡本圭次郎 昭8 四〇〇〇〇</p>
<p>12 RICHARDSON (リチャードソン) 寺井邦男 昭8 三四〇〇〇</p>
<p>13 BEN JONSON (ベンジョン) 本多彌蔵 昭9 三〇〇〇〇</p>
<p>14 DREISER (ドライサー) 高垣松雄 昭8 三四〇〇〇</p>
<p>15 S. L. SASOON (サスーン) 田上元徳 昭10 三四〇〇〇</p>
<p>16 JANE AUSTEN (ジェイン・オーステン) 大内脩郎 昭9 四〇〇〇〇</p>
<p>17 HENRY JAMES (ヘンリイ・詹姆斯) 監谷 栄 昭9 四〇〇〇〇</p>
<p>18 D. G. ROSSETTI (ロゼッティ) 小日向定次郎 昭9 五六〇〇〇</p>
<p>19 DANIEL DEFOE (ディフォウ) 瀧山德三 昭9 四〇〇〇〇</p>
<p>(ベーベズ)</p>
<p>20 BURNS (バーンズ) 中村為治 昭9 三四〇〇〇</p>
<p>21 HARDY (ハーティ) 片山 俊 昭9 K. 〇〇〇〇〇</p>
<p>O'NEILL (オニール) 清野暢一郎 昭10 K. 〇〇〇〇〇</p>
<p>FIELDING (フィールディング) 岡本安章 昭10 K. 〇〇〇〇〇</p>
<p>MILTON (ミルトン) 斎藤勇 昭8 五〇〇〇〇</p>
<p>MEREDITH (メリディス) 松浦嘉一 昭9 K. 〇〇〇〇〇</p>
<p>DONNE (ダーニー) 佐山栄太郎 昭9 K. 〇〇〇〇〇</p>
<p>G. B. SHAW (ショー) 野上豊一郎 昭10 K. 〇〇〇〇〇</p>
<p>CRABBE (クラッブ) 大和資雄 昭9 三〇〇〇〇</p>
<p>COLLINS (コリンズ) 昭10 三〇〇〇〇</p>
<p>斎藤 勇</p>

京都市左京区今出川通百万遍東入（京都大学前）

1	新修京都叢書	光彩社	二十一函揃昭42迄、000
2	世界文学全集一二期・新沢社	函子部 五十七冊揃昭49迄、000	大月書店 美本
3	スターリン全集	五十七冊揃昭49迄、000	十三函揃昭27迄、000
4	デルタイ著作集	研究評論 編集	四卷歴史的理性批判 創元社 昭21二函
5	手紙の歴史	魚澄惣五郎	昭18二函、000
6	大和を中心とする日本彫刻史	源豊宗	昭16一函、000
7	詭辯の研究	荒木良造	昭16一函、000
8	へちまのかは	谷川徹三	昭16一函、000
9	橡の実	杉村楚人冠	昭16一函、000
10	柿の種	吉村冬彦	昭16一函、000
11	自然人間書物	寺田寅彦	昭16一函、000
12	思想遠近	安部能成	昭16一函、000
13	民族耐久	高田保馬	昭16一函、000
14	漱石雑記	小宮富隆	昭16一函、000
15	漱石山房の記	内田百閒	昭16一函、000
16	渾賛隨筆	会津八一	昭16一函、000
17	蝸牛庵訪問設	露伴先生の晩年	昭16一函、000
18	童謡集月と胡桃	北原白秋	昭16一函、000
19	芸術の圓光詩集	北原白秋	昭16一函、000
20	牡丹の木歌集	北原白秋	昭16一函、000
21	北原白秋扇	北原白秋	昭16一函、000
22	多磨第四歌集	北原白秋	昭16一函、000
23	多磨雙書上・下	北原白秋	昭16一函、000
24	白秋一輯	北原白秋	昭16一函、000
25	水の構図等真集	北原白秋・田中善徳	昭16一函、000
26	北條民雄全集	北原白秋	昭16一函、000
27	小島の春	上下	昭15二函、000
28	生活の探求	小川正子	昭15二函、000
29	四世同堂	島木健作	昭15二函、000
30	戦死譚	老舗	昭15二函、000
31	土と兵隊	火野葦平	昭15二函、000
32	麦と兵隊	火野葦平	昭15二函、000
33	特異兒童作品集	春鳥会・山下清	昭15二函、000

〒 600 京都市左京区田中里ノ前町55

## 福田屋書店

電話 (〇七五) 七八一三三二六

1 近松全集	11 分壳	朝日新聞社	各大 14
2 民俗文学講座	6 冊揃	弘文堂	昭 46
3 桂月全集	1・2・3・4・5・8・9・10・12巻分光	各 大 11	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
4 伊藤公演説集	博文館	明 43	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
5 名家演説集	津田房之助	明 31	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
6 陸奥宗光	坂崎城	明 31	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
7 軍神広瀬中佐伝	有馬成甫	昭 10	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
8 大阪財閥論	藤山貌郎	昭 14	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
9 通信論叢	奥村喜和男	交通研究社	明 43
10 社会保険研究	森花三郎	明 31	
11 社会問題講座	合本五冊揃	新潮社	明 31
12 支那の真相	大河平隆光	昭 2	
13 大正名著文庫	(至誠堂) (2) 人の運桂月 (1) 人之心叶草 (3) 紙木村 (青柳) (3) 握手から如是閣 (4) 妻人妻語 (5) 旅から旅 (6) 頭者 ために楚人歌 (7) 月の跡 (桂月)	大 2・15 各 1	
14 日本浴美会雑誌	今井恒郎他	昭 15	
15 泊泉 (跡見女子校々友会誌)	坂本はま子	昭 15	
16 実践家政学講義	新編小学女子修身全書	昭 15	
17 自治及修身教育批判	合本五冊揃	昭 15	
18 教育研究会	背損	昭 15	
19 バウエル・青年健児教範	少年団日本連盟	昭 19	
20 世界教育行脚	小原國芳	昭 20	
21 学制百年史	文部省	昭 21	
22 裸の町	資料篇共二冊	昭 22	
23 初版	真船豊	昭 23	
24 生活の益	双雅房	昭 23	
25 応仁秘史流転	笠川臨風	昭 24	
26 あめりか写真紀行	博文館	昭 24	
27 郷土芸術双書 (佐渡おけさ)	箱入	昭 24	
28 四季様々の鳥の研究	内田清之助	昭 24	
29 伝書鳩の研究	武知彦采	昭 24	
30 賴山陽書翰集	下巻	昭 24	
31 古書画の価格	民友社	昭 24	
32 清水澄		昭 24	

〒 600 京都市下京区七条通堀川角

## 谷書店

電話 (〇七五) 三六一七六九五

振替 京都 一、一、七、九

1 圣德太子傳記	高橋順次郎訳	明 26
2 阿毘達磨俱舍論翼	山縣良温	明 26
3 因明学序説	湯次了栄	明 26
4 因明入止理論講録	梁瀬我聞	明 26
5 新訳翻訳名義集	若原敬経	明 26
6 達磨の研究	訓詁	明 26
7 聖德太子伝講話	松本文三郎	大 3
8 略述淨土教理史	大須賀秀道	大 3
9 白道の聖者	善導大師	昭 12
10 浄土妙典三部経説解	大須賀秀道	昭 12
11 浄土宗義細要	望月信亨	昭 2
12 往生論註講判	吉谷寛寿	昭 2
13 净土教理の解し方	藤守曉明	昭 33
14 真宗の仏教各宗の綱要	雲山龍珠	昭 34
15 十劫久造 (真宗論題叢書1)	雲山龍珠	昭 34
16 教行信證御自釈管鏡	住田智見	昭 2
17 宗祖大師御法語	大谷派本願寺	昭 11
18 三帖和讃講義	柏原祐義	昭 6
19 仏説阿弥陀經商量記	細川千嚴	昭 12
20 正信偈新釈	河崎頴	大 13
21 わが四十八願の話	大富秀賢	大 13
22 真宗常佩記	龜井勝麻	大 13
23 大無量寿経講述	藤田好堅	大 13
24 真宗六年契	下間晴明	明 32
25 行巻に顯れたる帰命釈	藤田曉明	明 32
26 三願講説	朝日保寧	大 14
27 阿彌陀經處世應用講話	牧浦愛泉	明 32
28 安心決定沙鉢吹	佐々木慈雲	大 14
29 二種深信讚仰記	占部觀順	明 32
30 願生縛命弁	平乗寺功存	大 14
31 易行品大意	南條神興	明 32
32 蓮門崇行錄	恵忍	明 32
33 蓮如上人歎異妙講話		昭 37
34 梅原真隆		昭 37
35 梅原真隆		昭 37
36 宇野最勝		大 11
37 佐藤敬三九		一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
38 能信院示談語錄		大 6
39 貞信尼物語		一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
40 伏明語錄		大 4
41 秀存講師百話		明 37
42 香樹院師修養百話		大 6
43 貞信尼物語		一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二

A 松橋重口伝	房海著	一卷 各 300
1 応永七年 道快 (聖快) 筆		
2 原著者房海については、あまり知られていない。		
3 これの筆者道快は、南北朝末から室町極初期にかけて、活躍した人で、著作も多く「四度事鈔」他十数部を残している。東寺百二十一代長者法務。		
43 貞信尼物語		
40 伏明語錄		
41 秀存講師百話		
42 香樹院師修養百話		
43 貞信尼物語		
A 松橋重口伝	房海著	一卷 各 300
1 応永七年 道快 (聖快) 筆		
2 原著者房海については、あまり知られていない。		
3 これの筆者道快は、南北朝末から室町極初期にかけて、活躍した人で、著作も多く「四度事鈔」他十数部を残している。東寺百二十一代長者法務。		
43 貞信尼物語		
40 伏明語錄		
41 秀存講師百話		
42 香樹院師修養百話		
43 貞信尼物語		
B 近代名家著述目録 (本朝諸名家著述書目録)	堤朝風原輯	昭 5
C 萬葉堂英遵補定	萬葉堂英遵補定	昭 5
D 二ッ切本五冊揃	二ッ切本五冊揃	三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
E 江戸未刊	江戸未刊	三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
F 五百部御文講話	五百部御文講話	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
G 梅原真隆	梅原真隆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
H 梅原真隆	梅原真隆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
I 梅原真隆	梅原真隆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
J 梅原真隆	梅原真隆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
K 梅原真隆	梅原真隆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
L 梅原真隆	梅原真隆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
M 梅原真隆	梅原真隆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
N 梅原真隆	梅原真隆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
O 梅原真隆	梅原真隆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
P 梅原真隆	梅原真隆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
Q 梅原真隆	梅原真隆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
R 梅原真隆	梅原真隆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
S 梅原真隆	梅原真隆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
T 梅原真隆	梅原真隆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
U 梅原真隆	梅原真隆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
V 梅原真隆	梅原真隆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
W 梅原真隆	梅原真隆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
X 梅原真隆	梅原真隆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
Y 梅原真隆	梅原真隆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
Z 梅原真隆	梅原真隆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二

A 松橋重口伝	房海著	一卷 各 300
1 応永七年 道快 (聖快) 筆		
2 原著者房海については、あまり知られていない。		
3 これの筆者道快は、南北朝末から室町極初期にかけて、活躍した人で、著作も多く「四度事鈔」他十数部を残している。東寺百二十一代長者法務。		
43 貞信尼物語		
40 伏明語錄		
41 秀存講師百話		
42 香樹院師修養百話		
43 貞信尼物語		
A 松橋重口伝	房海著	一卷 各 300
1 応永七年 道快 (聖快) 筆		
2 原著者房海については、あまり知られていない。		
3 これの筆者道快は、南北朝末から室町極初期にかけて、活躍した人で、著作も多く「四度事鈔」他十数部を残している。東寺百二十一代長者法務。		
43 貞信尼物語		
40 伏明語錄		
41 秀存講師百話		
42 香樹院師修養百話		
43 貞信尼物語		
B 近代名家著述目録 (本朝諸名家著述書目録)	堤朝風原輯	昭 5
C 萬葉堂英遵補定	萬葉堂英遵補定	昭 5
D 二ッ切本五冊揃	二ッ切本五冊揃	三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
E 江戸未刊	江戸未刊	三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
F 五百部御文講話	五百部御文講話	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
G 梅原真隆	梅原真隆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
H 梅原真隆	梅原真隆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
I 梅原真隆	梅原真隆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
J 梅原真隆	梅原真隆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
K 梅原真隆	梅原真隆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
L 梅原真隆	梅原真隆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
M 梅原真隆	梅原真隆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
N 梅原真隆	梅原真隆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
O 梅原真隆	梅原真隆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
P 梅原真隆	梅原真隆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
Q 梅原真隆	梅原真隆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
Z 梅原真隆	梅原真隆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二

A 松橋重口伝	房海著	一卷 各 300
1 応永七年 道快 (聖快) 筆		
2 原著者房海については、あまり知られていない。		
3 これの筆者道快は、南北朝末から室町極初期にかけて、活躍した人で、著作も多く「四度事鈔」他十数部を残している。東寺百二十一代長者法務。		
43 貞信尼物語		
40 伏明語錄		
41 秀存講師百話		
42 香樹院師修養百話		
43 貞信尼物語		
A 松橋重口伝	房海著	一卷 各 300
1 応永七年 道快 (聖快) 筆		
2 原著者房海については、あまり知られていない。		
3 これの筆者道快は、南北朝末から室町極初期にかけて、活躍した人で、著作も多く「四度事鈔」他十数部を残している。東寺百二十一代長者法務。		
43 貞信尼物語		
40 伏明語錄		
41 秀存講師百話		
42 香樹院師修養百話		
43 貞信尼物語		
B 近代名家著述目録 (本朝諸名家著述書目録)	堤朝風原輯	昭 5
C 萬葉堂英遵補定	萬葉堂英遵補定	昭 5
D 二ッ切本五冊揃	二ッ切本五冊揃	三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
E 江戸未刊	江戸未刊	三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
F 五百部御文講話	五百部御文講話	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
G 梅原真隆	梅原真隆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
H 梅原真隆	梅原真隆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
I 梅原真隆	梅原真隆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
J 梅原真隆	梅原真隆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
K 梅原真隆	梅原真隆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
L 梅原真隆	梅原真隆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
M 梅原真隆	梅原真隆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
N 梅原真隆	梅原真隆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
O 梅原真隆	梅原真隆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
P 梅原真隆	梅原真隆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
Q 梅原真隆	梅原真隆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二
Z 梅原真隆	梅原真隆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二

〒606 京都市左京区一乗寺里の前24の12

石川古本店

電話(〇七五)七一一五四二九

京都市上京区今出川通り寺町西入ル

藤原北御所書房

電話  
（〇七五）一四一—五九六

33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2				
数学思想史序説	数学教育史	地区の人々	改訂版美	ゴーストツップ	新版無産者新聞論説集	ルーベンス	東京からくり音頭	「新人」附録	死の書	再建	蟹工船	平家物語諸本の研究	今昔物語集論	雨月物語の研究	二人画工	黒髪	孔版	橋守部者	久曾神昇	池田亀鑑	萩谷朴	志村陸城	高官寿	佐々木達	西堀一三	志村昭	佐々木昭	西堀昭	志村昭	佐々木昭	西堀昭	志村昭	佐々木昭	西堀昭	志村昭
数学思想史序説	数学教育史	地区の人々	改訂版美	ゴーストツップ	新版無産者新聞論説集	ルーベンス	東京からくり音頭	「新人」附録	死の書	再建	蟹工船	平家物語諸本の研究	今昔物語集論	雨月物語の研究	二人画工	黒髪	孔版	橋守部者	久曾神昇	池田亀鑑	萩谷朴	志村陸城	高官寿	佐々木達	西堀一三	志村昭	佐々木昭	西堀昭	志村昭	佐々木昭	西堀昭	志村昭	佐々木昭	西堀昭	志村昭
数学思想史序説	数学教育史	地区の人々	改訂版美	ゴーストツップ	新版無産者新聞論説集	ルーベンス	東京からくり音頭	「新人」附録	死の書	再建	蟹工船	平家物語諸本の研究	今昔物語集論	雨月物語の研究	二人画工	黒髪	孔版	橋守部者	久曾神昇	池田亀鑑	萩谷朴	志村陸城	高官寿	佐々木達	西堀一三	志村昭	佐々木昭	西堀昭	志村昭	佐々木昭	西堀昭	志村昭	佐々木昭	西堀昭	志村昭
数学思想史序説	数学教育史	地区の人々	改訂版美	ゴーストツップ	新版無産者新聞論説集	ルーベンス	東京からくり音頭	「新人」附録	死の書	再建	蟹工船	平家物語諸本の研究	今昔物語集論	雨月物語の研究	二人画工	黒髪	孔版	橋守部者	久曾神昇	池田亀鑑	萩谷朴	志村陸城	高官寿	佐々木達	西堀一三	志村昭	佐々木昭	西堀昭	志村昭	佐々木昭	西堀昭	志村昭	佐々木昭	西堀昭	志村昭

5 34 数学小景  
少平数学史

中澤山  
花袋弘光



八木書店古書部

電話(〇七五)八一一一三八九〇

- |       |                            |              |                |
|-------|----------------------------|--------------|----------------|
| 1     | 黃檗室明國僧即非如一筆玉珠贊             | 一幅           | 傷み合<br>ふみあ     |
| 2     | 平戸岡崎城主松浦黒誠中臣俊撰津国住吉祠        | 文政8<br>年、000 | 一幅             |
| 3     | 水戸景山公(齊昭)筆 見義不為無勇也         | 三、000        | 一幅             |
| 4     | 徳本老師肖像面并名号                 | 一幅           | 墨摺             |
| 5     | 理学博士近重真澄物ア筆神画              | 一幅           | 八、000          |
| 6     | 6 僧 梅嶺筆 朱文公詩               | 一幅           | 傷物             |
| 7     | 7 日蓮聖人御筆 一輪二尊像 紙本能守妙譽名     | 一幅           | 八、000          |
| 8     | 8 拝山書 横物                   | 一幅           | 三、000          |
| 9     | 9 近江多賀神社 神像墨摺              | 一幅           | 三、000          |
| 10    | 10 小野探幽画 併蓮一讚              | 一幅           | 有<br>ゑ、000     |
| 11    | 11 東京佐筆 面団 蝗牛に驚く武士之図       | 一幅           | 三、000          |
| 12    | 12 加茂東王藤木秀直賛筆 九重龍図并贊       | 一幅           | 六、000          |
| 13    | 13 妙心寺管長 二陽道人筆             | 一幅           | 六、000          |
| 14    | 14 丹崖筆 七言絶句詩               | 一幅           | 傷物             |
| 15    | 15 九鬼元助筆 積寸累尺云々二行詩         | 一幅           | 六、000          |
| 16    | 16 仙潭筆 山水画                 | 一幅           | 六、000          |
| 17    | 17 伝 滾本坊乘方筆 和漢朗詠集          | 一幅           | 六、000          |
| 18    | 18 文晁筆 名将関羽之図              | 一幅           | 虫入<br>むし入り、000 |
| 19    | 19 釋證和上筆 一行物               | 一幅           | 一紙             |
| 20    | 20 絵岡義奴則成6冊後伝ふ冊上海広益書局陳遇乾著  | 一幅           | 五、000          |
| 21    | 21 大徳寺江月和尚筆 書翰             | 一幅           | 二紙             |
| 22    | 22 源照行筆 詞曲は音の表情にして云々識語     | 一幅           | 六、000          |
| 23    | 23 永源人麿影堂奉納和歌50首通躬公外 卷江戸中  | 一幅           | 五、000          |
| 24    | 24 火防大権現 5字 釋氏筆            | 一幅           | 五、000          |
| 25    | 25 中川盛月筆 布袋画贊              | 一幅           | 五、000          |
| 26    | 26 田子麗書 行書細記觀雪楼之記          | 一幅           | 六、000          |
| 27    | 27 妙心寺海門和尚筆 水流丸入海 5字       | 一幅           | 六、000          |
| 28    | 28 京師風俗画 句入り墨摺             | 一幅           | 六、000          |
| 29    | 29 中条筆 八百萬大神 5字一行          | 一幅           | 六、000          |
| 30    | 30 今上面附下御真影并御帳台高御座御座巖殿御即位図 | 一幅           | 六、000          |
| 31    | 31 宮内省典翰英華2冊拂清国学上院編印刷局刊非完品 | 一幅           | 六、000          |
| 32    | 32 江戸時代图誌2冊 京都編(京都案内決定版)   | 一幅           | 六、000          |
| 33    | 33 昭和44年4月1日付              | 昭和44年4月1日付   | 昭和44年4月1日付     |
| 原色版   | 原色版                        | 原色版          | 原色版            |
| 国宝    | 国宝                         | 国宝           | 国宝             |
| 12冊揃  | 12冊揃                       | 12冊揃         | 12冊揃           |
| 毎日新聞社 | 毎日新聞社                      | 毎日新聞社        | 毎日新聞社          |

語源叢談	4冊揃	新村出著	昭51四、100
フロイド日本史八冊揃	松田・川崎共訳	昭52二、800	
鏑木清方編(現代日本人画全集集英社	昭52三、800		
写真図説日本学生の歴史	講談社	昭50五、800	
東山魁夷全集 第5巻 京都編	昭53三、800		
平安時代上編(日本文学講座4巻新潮社	昭6一、600		
維新史大観	井野辺茂雄	昭18一、吾	
錦絵幕末明治の歴史	12冊揃	講談社	昭52六、800
作句指導篇 読俳句講座5巻	改造社	昭9一、八0	
日本文学史3巻 大和時代 倉野憲司	昭18二、吾		
天平乃文化	朝日新聞社	昭3一、合	
日本文学史4巻 平安時代前期	西下経一	昭17一、合	
写真画報1巻2編	10冊	昭10七、800	
非常時国民全集 道徳篇	外交篇各1冊	昭9一、吾	
日本文概説上下2冊	坂本太郎	昭26云、800	
普通文法精義上下合本	錦織竹香	昭12大元一、合	
床の間集第一 建築字真類別巻	大汚	昭10一、000	
皇族墓誌 沙門寛顕草正暦3年を正平2年写	高梨著	吾2000	
国文学史 藤井乙男著	国文学講座	昭5一、000	
日本脱出記 大杉栄	初版	昭10吾、800	
参考日本大歴史 青木武助	傷物	昭17大12吾、800	
國語教育のための国語概説 山田正紀	山田正紀	昭10大7一、000	
習字新法	岡田起作	昭10大7吾、800	
大靈道主元伝	太靈道本院刊	昭12云、800	
日本美術史(2)先史及原始時代	奈良飛鳥園刊	昭5六、800	
京華要報 3冊揃	大10奈良飛鳥園刊	昭5二、000	
松岡映丘画集 猪木卓爾編	背傷物	昭5一、000	
日本現代文章講座8冊揃	前田一男編	昭9二、000	
四大才子と美術 内藤等	木阪地方を寺院	昭10六、000	
農業害虫	木村著	昭10六、000	
新昆虫記	外山卯三郎	昭15昭3云、800	
益裁隨筆	樹石	昭15昭3云、800	
支那情調	水谷温	昭15昭3云、800	
農業害虫	神谷一男(農業全書)	昭15昭3云、800	
新昆蟲記	木村小舟	昭15昭3云、800	
益裁隨筆	能勢萬	昭15昭3云、800	
支那情調	初版傷	昭15昭3云、800	
木堂政論集(犬養毅)川崎亮編	初版	昭15昭3云、800	
近世社会思想史 初版背傷	波多野鼎	昭15昭3云、800	

賀茂真淵	大石新
京阪沿線の古建築 初版	藤原義一
西京去留誌（韓國記）徳富猪一郎	昭 11 17
対校源氏物語新釈 吉沢義則 卷一欠 5冊	昭 12 13
俳文学の考察 志田義秀 水ぬれ大汚	昭 7
倭文範 義太夫20段 片山與三吉 初版	昭 80
夢作の人 成瀬無極	昭 83
大日本商業史附平戸貿易史 菅沼貞風	昭 75
植物の表皮 猪野俊平 68頁 初版	昭 76
藩札回録 18~24 阿波国外	昭 77
赤河内 村郷上誌 徳島県日和佐町等井藍水編	昭 77
国文学書目集覽 桐内松三	昭 78
現代短歌全集12卷 喜吉赤彌編 4巻子規節編	昭 79
社会科学辞典 末川博監修 奥付欠	昭 80
江戸時代の男女関係 田中香涯 初版	昭 81
絵本江戸紫 破天荒 高野弦月訳 初版	昭 82
絵本駿河舞 美人絵くし 師宣筆（日本風俗図絵復製）	昭 83
中条百合子集字野千代集（新進傑作小説全集15巻）	昭 84
豊信筆（日本風俗図絵復製）	昭 85
豊信筆（日本風俗図絵復製）	昭 86
絵本落葉山隨筆 吉川幸次郎訳 初版カバ一欠	昭 87
杉田玄白高野長英 吉田三郎（日本教育家文庫）	昭 88
黄檗山管長 義道禪師筆 福地画賛 一幅	昭 89
庭木の病虫害 堀正太郎 初版傷物	昭 90
神国日本 小泉八雲 田部戸川改訳版	昭 91
原在照筆 大黒様之図 一幅	昭 92
龜田窮先生筆 書翰 一幅	昭 93
鳥の歌の科学 川村多実二 箱欠	昭 94
埴輪 鳩 一個 小傷有 発掘品	昭 95
宝来山之図 細物 一幅	昭 96
大正頃 筆者不詳	昭 97
大正頃	昭 98
昭 99 昭 100 昭 101 昭 102 昭 103 昭 104 昭 105 昭 106 昭 107 昭 108 昭 109 昭 110	昭 100 昭 101 昭 102 昭 103 昭 104 昭 105 昭 106 昭 107 昭 108 昭 109 昭 110
野鳥と共に 野鳥と中西悟堂	昭 100
豊子恰縁縁草隨筆 牧野富太郎	昭 101
歌麿筆（日本風俗図絵復製）	昭 102
中西悟堂 牧野富太郎	昭 103
絵本落葉山隨筆 吉川幸次郎訳	昭 104
杉田玄白高野長英 吉田三郎（日本教育家文庫）	昭 105
黄檗山管長 義道禪師筆 福地画賛 一幅	昭 106
庭木の病虫害 堀正太郎 初版傷物	昭 107
神国日本 小泉八雲 田部戸川改訳版	昭 108
原在照筆 大黒様之図 一幅	昭 109
龜田窮先生筆 書翰 一幅	昭 110
鳥の歌の科学 川村多実二 箱欠	昭 111
埴輪 鳩 一個 小傷有 発掘品	昭 112
宝来山之図 細物 一幅	昭 113
大正頃 筆者不詳	昭 114

三密堂書店

〒600  
京都下京区寺町通伝光寺下る

下 600 京都市下京区寺町通仏光寺下る

京都市左京区淨土寺西田町八十一ノ四  
法律・経済・思想  
一般書  
竹岡書店

- 京都市左京区浄土寺西田町八十一ノ四

法律・経済・思想

竹岡書店



〒606 京都市左京区北白川久保田町64の5

社会科学系  
学術書専門

外山書店

電話(075)70-1166-17

経済史・経営史・商業史・企業史・産業史・研究室研究会社史・産業史・商業資料藏書目録

18×26cm 本文181頁写真28頁索引65頁 (丁二〇〇)  
長尾隆次資料室編 定価ハ五〇〇

## 目次

日本銀行沿革史(第三集)(写真)(写真説明)(概説)  
序文・凡例

## 第一部 社史・企業史・産業史・商工經濟関係

## 優秀会社史賞(写真)(概説)写真(十頁)

建設関係 ..... 97点

食品関係 ..... 98点

織維関係 ..... 108点

紙・パルプ関係 ..... 52点

化学関係 ..... 86点

石油関係 ..... 42点

ガラスセメント土石関係 ..... 42点

鉱業非鉄金属関係 ..... 65点

自動車輸送用機器関係 ..... 50点

鉄道関係 ..... 25点

百貨店関係 ..... 69点

保険関係 ..... 56点

新聞・放送関係 ..... 126点

印刷事務機(用品)関係 ..... 40点

倉庫関係 ..... 21点

水産漁業市場農産物関係 ..... 163点

郵便・電信・電話関係 ..... 34点

商工会議所商工財界関係 ..... 234点

人物史関係 ..... 65点

労働組合関係 ..... 21点

風俗ファンション関係 ..... 67点	スポーツレジャー関係 ..... 55点
料理旅館サービス関係 ..... 24点	街遊興サービス関係 ..... 29点
競馬競輪競艇関係 ..... 23点	追補 ..... 98点
概説 ..... 13点	化粧品 ..... 6点
写真(18頁) ..... 13点	料理屋旅館花柳界 ..... 34点
第二部 老舗の広告及商業資料(引札)関係	銀行・保険 ..... 31点
未収集社史一覧	芝居・興行 ..... 20点
索引・編集を終えて	海運・陸運 ..... 38点
発行者の言葉(序文より)	材木建築金物提燈煙草 ..... 26点
日本の企業といえば、明治、大正、昭和の百年にわたって実にすばらしい発展をたどっていることは、云うまでもありません。日本は、第二次世界大戦に於いては無条件降伏をしたのであります。特に其の後の三十有余年間の日本の産業並に経済の技術革新は、世界各国から注目を浴び、今や世界をリードするほどになつたのであります。その企業一社一社が、創業より今まで幾つかの変遷によつて、現在の様な立派な会社が築き上げられたのであります。中には、発展をつづけながらもさまざまな事情により既に滅ぼされた企業もありますが、しかしながら創立者の努力、誠実さのため、又創立者からの二代目、三代目とその経営理念を引き継ぎ、新たな発展に結びつけた後継者並に業務を共にした労者の手腕、努力を教訓にしなければならない。これ等の社史、記念史の中には、幾多の苦難が克明に綴られている。	新聞・報道 ..... 37点
本屋文具屋各商店其他 ..... 21点	本屋文具屋各商店其他 ..... 21点
その他 ..... 39点	その他 ..... 3点

との御付合は私が神田の篠村書店で丁稚奉公していた時からすでに足掛け十年程になります。その御縁でこの度の「会社史・産業史・商業資料藏書目録」の発売の重任を仰せ仕かりました。

前述の目次の通り、ほぼ完璧に近い内容を有す、この藏書目録をすべての研究者の座右に御届け出来る事は私一人の慶びでは無いと信じます。(外山記)

宗教教説史・行刑史研究書の決定版!

宗敎聖人御誕生八百年  
立教開宗七百五十年  
記念出版

教誨百年上下巻 計一五六〇頁  
淨土真宗本願寺派 本願寺 昭和48年4月発行  
真宗大谷派 本願寺 價格 三万円

## 教誨百年

上巻

計一五六〇頁

淨土真宗本願寺派 本願寺 昭和48年4月発行

真宗大谷派 本願寺 價格 三万円

## 目次(上巻)

総編 真宗教義と刑務教誨史の概要  
教誨師の研究機関 思想事件収容者と教誨師  
死刑確定者と教誨師 戰時行刑と教誨師  
戦犯者と教誨師 保護事業と教誨師  
各編 関東地方 近畿地方 中部地方 中国地方  
九州地方 東北地方 北海道地方 四国地方

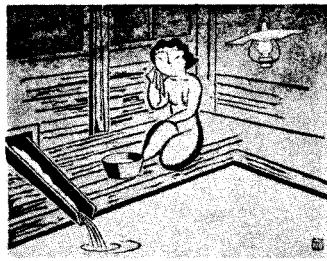
台湾及び関東州  
教誨の展望  
教誨百年略年表  
あとがき

第一編 教誨の創始者 先覚者群像  
第二編 東鴨事件 思想犯 東京空襲と教誨師  
南方教誨記 死刑囚教誨秘話 教誨余滴  
第三編 旧朝鮮教誨史話 滿洲國教誨書  
教誨制度の変革前後 短章集 全国教誨師名簿

1 1 京都府教育会五十年史 同会昭50年  
2 2 京都府教育会最近十年史 同会昭16年  
3 3 九州地方事務機関報告 京都市小学校学事調査団 昭13年  
4 4 校友雑誌 第14・15・17号3冊 京都市府範学校 大6710年  
5 5 京都市立第一商業学校一覧 自大4至大5年

## 大書堂

中京区寺町通錦上ル 振替京都3165 電話(221-0685)



(8)前川千帆 浴泉  
木版 29×24  $\frac{6}{100}$   
サイン入 ¥50,000



(4)前田政雄 妙義山  
木版 36×26  $\frac{78}{100}$   
サイン入 ¥60,000



(1)駒井哲郎 樹木  
エッチング 24×22  
 $\frac{49}{100}$   
サイン入 ¥78,000



(9)安井曾太郎 静物  
木版 30×44  $\frac{44}{100}$   
サイン入 ¥150,000



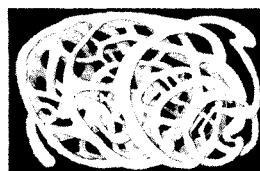
(5)中尾義隆 母子  
木版 34×22  $\frac{92}{100}$   
サイン入 ¥60,000



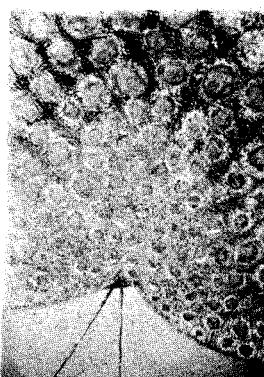
(2)山口 源 芍薬  
木版 38×29  $\frac{38}{100}$   
サイン入 ¥50,000



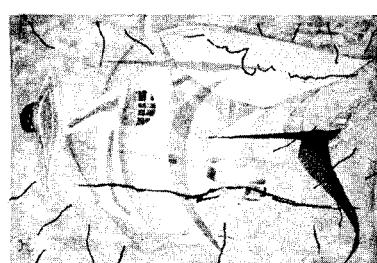
(10)宮下登喜雄 河岸  
エッチング 34×22  $\frac{98}{100}$   
サイン入 ¥38,000



(6)田河水泡 創世記  
エッチング 28×20  
 $\frac{6}{100}$   
サイン入 ¥60,000



(3)泉 茂 孔雀  
リトグラフ 40×28  
 $\frac{77}{100}$   
サイン入 ¥30,000



(11)萩原英雄 热帶魚  
木版 39×29  $\frac{29}{100}$   
サイン入 ¥50,000



(7)バートレット キペール  
木版 35×25  
サイン入 ¥28,000

〒603 京都市北区小山下内河原町六二

古書籍  
東方書店



〒530

大阪市北区芝田一丁目六番二号  
阪急古書のまち

## 株臨川書店 大阪店

電話 (06) 三七四一 一三〇〇  
振替 京都 八〇〇〇番

営業時間 午前十一時～午後八時 定休日 毎週水曜日

1 和紙稀観文献集(複製限定四九二部)寿岳文庫 和缺	昭50	吉田一郎	内田清之助
2 東西紙漬図絵 限定五百部	昭31	吉田一郎	内田清之助
3 和紙 東野辺彌 四六	昭46	吉田一郎	内田清之助
4 和紙三味 安部栄四郎 菊箱	昭47	吉田一郎	内田清之助
5 正倉院宝物の紙に関する調査研究 上村六郎 四六版	昭37	吉田一郎	内田清之助
6 手漉和紙考 成田潔英 菊	昭51	吉田一郎	内田清之助
7 手漉紙史の研究 関義城 四六倍箱	昭19	吉田一郎	内田清之助
8 古今紙漬紙屋図絵 関義城 四六倍箱	昭51	吉田一郎	内田清之助
9 政府国紙名録 補製 尾崎富五郎 菊和	昭15	吉田一郎	内田清之助
10 岐阜県手漉紙沿革史(改裝) 森義一 菊箱	昭51	吉田一郎	内田清之助
11 越前和紙のはなし 斎藤岩雄 菊箱	昭48	吉田一郎	内田清之助
12 三極及三櫻紙考 成田潔英 菊	昭48	吉田一郎	内田清之助
13 深山紙 上海博物館 平凡社	昭44	吉田一郎	内田清之助
14 紙絵から画紙へ 上野千鶴子 中国書画図録 京都国立博物館 四六倍箱	昭51	吉田一郎	内田清之助
15 十竹齋画譜大全(影印) 京都書院 菊	昭41	吉田一郎	内田清之助
16 印度の仏教美術 高田修 奥村幸雄 四六倍箱	昭52	吉田一郎	内田清之助
17 広重 内田実 四六倍箱	昭21	吉田一郎	内田清之助
18 渡辺華山 笹川臨風 四六版	昭22	吉田一郎	内田清之助
19 菊華山の研究 萩沼貞一 菊	昭19	吉田一郎	内田清之助
20 長崎絵画全史 古賀士一郎 菊	昭22	吉田一郎	内田清之助
21 永徳と山菜 中井宗太郎 四六倍箱	昭53	吉田一郎	内田清之助
22 田能村竹田先生 木崎好尚 菊	昭10	吉田一郎	内田清之助
23 岸田劉生とその周辺 近藤市太郎 四六版	昭22	吉田一郎	内田清之助
24 河童の影法師 芦錢先生と俳画堂 島田勇吉 菊箱	昭19	吉田一郎	内田清之助
25 安井曾太郎 蒼藤隆三 菊	昭49	吉田一郎	内田清之助
26 大痴芋銭手翰 私版限定百拾部 反野代二小横本 昭	昭16	吉田一郎	内田清之助
27 芦錢手翰 私版限定百拾部 反野代二小横本 昭	昭16	吉田一郎	内田清之助
28 芦錢手翰 私版限定百拾部 反野代二小横本 昭	昭16	吉田一郎	内田清之助
29 芦錢手翰 私版限定百拾部 反野代二小横本 昭	昭16	吉田一郎	内田清之助
30 芦錢手翰 私版限定百拾部 反野代二小横本 昭	昭16	吉田一郎	内田清之助
31 芦錢手翰 私版限定百拾部 反野代二小横本 昭	昭16	吉田一郎	内田清之助
32 芦錢手翰 私版限定百拾部 反野代二小横本 昭	昭16	吉田一郎	内田清之助
33 芦錢手翰 私版限定百拾部 反野代二小横本 昭	昭16	吉田一郎	内田清之助
34 芦錢手翰 私版限定百拾部 反野代二小横本 昭	昭16	吉田一郎	内田清之助
35 芦錢手翰 私版限定百拾部 反野代二小横本 昭	昭16	吉田一郎	内田清之助
36 芦錢手翰 私版限定百拾部 反野代二小横本 昭	昭16	吉田一郎	内田清之助
37 芦錢手翰 私版限定百拾部 反野代二小横本 昭	昭16	吉田一郎	内田清之助
38 芦錢手翰 私版限定百拾部 反野代二小横本 昭	昭16	吉田一郎	内田清之助
39 芦錢手翰 私版限定百拾部 反野代二小横本 昭	昭16	吉田一郎	内田清之助
40 芦錢手翰 私版限定百拾部 反野代二小横本 昭	昭16	吉田一郎	内田清之助
41 芦錢手翰 私版限定百拾部 反野代二小横本 昭	昭16	吉田一郎	内田清之助
42 芦錢手翰 私版限定百拾部 反野代二小横本 昭	昭16	吉田一郎	内田清之助
43 芦錢手翰 私版限定百拾部 反野代二小横本 昭	昭16	吉田一郎	内田清之助
44 芦錢手翰 私版限定百拾部 反野代二小横本 昭	昭16	吉田一郎	内田清之助
45 芦錢手翰 私版限定百拾部 反野代二小横本 昭	昭16	吉田一郎	内田清之助
46 芦錢手翰 私版限定百拾部 反野代二小横本 昭	昭16	吉田一郎	内田清之助
47 芦錢手翰 私版限定百拾部 反野代二小横本 昭	昭16	吉田一郎	内田清之助
48 芦錢手翰 私版限定百拾部 反野代二小横本 昭	昭16	吉田一郎	内田清之助
49 芦錢手翰 私版限定百拾部 反野代二小横本 昭	昭16	吉田一郎	内田清之助
50 芦錢手翰 私版限定百拾部 反野代二小横本 昭	昭16	吉田一郎	内田清之助
51 芦錢手翰 私版限定百拾部 反野代二小横本 昭	昭16	吉田一郎	内田清之助
52 芦錢手翰 私版限定百拾部 反野代二小横本 昭	昭16	吉田一郎	内田清之助
53 芦錢手翰 私版限定百拾部 反野代二小横本 昭	昭16	吉田一郎	内田清之助
54 芦錢手翰 私版限定百拾部 反野代二小横本 昭	昭16	吉田一郎	内田清之助
55 芦錢手翰 私版限定百拾部 反野代二小横本 昭	昭16	吉田一郎	内田清之助
56 橘孝三郎外十九名に対する爆発物取締罰則	昭57	吉田一郎	内田清之助
57 日本共産党に対する批判(一)	昭57	吉田一郎	内田清之助
58 日本共産党に対する批判(二)	昭57	吉田一郎	内田清之助
59 第56回国会議事速記録	昭57	吉田一郎	内田清之助
60 第55回国会議事速記録	昭57	吉田一郎	内田清之助
61 第54回国会議事速記録	昭57	吉田一郎	内田清之助
62 第53回国会議事速記録	昭57	吉田一郎	内田清之助
63 第52回国会議事速記録	昭57	吉田一郎	内田清之助
64 第51回国会議事速記録	昭57	吉田一郎	内田清之助
65 第50回国会議事速記録	昭57	吉田一郎	内田清之助
66 第49回国会議事速記録	昭57	吉田一郎	内田清之助
67 第48回国会議事速記録	昭57	吉田一郎	内田清之助
68 第47回国会議事速記録	昭57	吉田一郎	内田清之助
69 第46回国会議事速記録	昭57	吉田一郎	内田清之助
70 第45回国会議事速記録	昭57	吉田一郎	内田清之助
71 第44回国会議事速記録	昭57	吉田一郎	内田清之助
72 第43回国会議事速記録	昭57	吉田一郎	内田清之助
73 第42回国会議事速記録	昭57	吉田一郎	内田清之助
74 第41回国会議事速記録	昭57	吉田一郎	内田清之助
75 第40回国会議事速記録	昭57	吉田一郎	内田清之助
76 第39回国会議事速記録	昭57	吉田一郎	内田清之助
77 第38回国会議事速記録	昭57	吉田一郎	内田清之助
78 第37回国会議事速記録	昭57	吉田一郎	内田清之助
79 第36回国会議事速記録	昭57	吉田一郎	内田清之助
80 第35回国会議事速記録	昭57	吉田一郎	内田清之助
81 第34回国会議事速記録	昭57	吉田一郎	内田清之助
82 第33回国会議事速記録	昭57	吉田一郎	内田清之助
83 第32回国会議事速記録	昭57	吉田一郎	内田清之助
84 第31回国会議事速記録	昭57	吉田一郎	内田清之助
85 第30回国会議事速記録	昭57	吉田一郎	内田清之助
86 第29回国会議事速記録	昭57	吉田一郎	内田清之助
87 第28回国会議事速記録	昭57	吉田一郎	内田清之助
88 第27回国会議事速記録	昭57	吉田一郎	内田清之助
89 第26回国会議事速記録	昭57	吉田一郎	内田清之助
90 第25回国会議事速記録	昭57	吉田一郎	内田清之助
91 第24回国会議事速記録	昭57	吉田一郎	内田清之助
92 第23回国会議事速記録	昭57	吉田一郎	内田清之助
93 第22回国会議事速記録	昭57	吉田一郎	内田清之助
94 第21回国会議事速記録	昭57	吉田一郎	内田清之助
95 第20回国会議事速記録	昭57	吉田一郎	内田清之助
96 第19回国会議事速記録	昭57	吉田一郎	内田清之助
97 第18回国会議事速記録	昭57	吉田一郎	内田清之助
98 第17回国会議事速記録	昭57	吉田一郎	内田清之助
99 第16回国会議事速記録	昭57	吉田一郎	内田清之助
100 第15回国会議事速記録	昭57	吉田一郎	内田清之助

印刷と鳥

内田清之助

菊箱昭12

六四〇

赤尾照文堂  
京都市中京区三河原町通六角下ル

〒602  
京都市中京区河原町通六角下ル

西604 京都市中京区河原町通六角下ル

# 赤尾照堂

1 世界大思想全集 第一期(明治2年) 河出書房	62冊 昭28 売り	39 38 37 36 35 34
2 世界の名著 岩波講座 哲学 河出書房	66冊 昭28 売り	西哲叢書
3 岩波講座 哲学 桑木敏翼 河出書房	18冊 昭43 五、三、二、一、	西哲叢書
4 哲学及哲学史研究 桑木敏翼 河出書房	11冊 昭13 六、五、四、三、二、一、	西哲叢書
5 哲學及宗教と其歴史 藤野先生著論文集 岩波書店	昭11 六、五、四、三、二、一、	西哲叢書
6 哲學講義 フルキエ 岩波書店	4冊 昭51 六、五、四、三、二、一、	西哲叢書
7 哲學辭典 初版函入美本 岩波書店	11冊 昭11 三、二、一、	西哲叢書
8 哲學辞典 増訂再版・改装美本 岩波書店	7冊 昭7 四、三、二、一、	西哲叢書
9 一般哲學史 井上折治訳 第一書房 岩波書店	4冊 昭16 五、四、三、二、一、	西哲叢書
10 ルバント一般哲學史 ルバント著、高坂正顕監修 岩波書店	1冊 昭16 五、四、三、二、一、	西哲叢書
11 ルバント一般哲學史 ルバント著、高坂正顕監修 岩波書店	1冊 昭16 五、四、三、二、一、	西哲叢書
12 西洋哲學史 高坂正顕 岩波書店	12冊 昭32 五、四、三、二、一、	西哲叢書
13 現代思想 岩波講座 岩波書店	15冊 昭15 五、四、三、二、一、	西哲叢書
14 現代倫理学 岩波講座 岩波書店	創文社 5冊 昭27 四、三、二、一、	西哲叢書
15 新倫理学講座 岩波講座 岩波書店	創文社 6冊 昭3 九、八、七、六、五、四、三、二、一、	西哲叢書
16 現代道德の論文 西田哲学大系 柳田謙十郎 岩波書店	大東出版 12冊 昭24 五、四、三、二、一、	西哲叢書
17 現代道德講座 和辻哲郎監修 岩波書店	岩波書店 17冊 昭36 二〇万	西哲叢書
18 現代英米の倫理学 岩波講座 岩波書店	福村出版 5冊 昭40 五、四、三、二、一、	西哲叢書
19 現代教育学 岩波講座 岩波書店	創文社 18冊 昭35 五、四、三、二、一、	西哲叢書
20 道徳科学の論文 西田哲学大系 柳田謙十郎 岩波書店	創文社 8冊 昭27 五、四、三、二、一、	西哲叢書
21 現代道德講座 和辻哲郎監修 岩波書店	岩波書店 12冊 昭30 八、七、六、五、四、三、二、一、	西哲叢書
22 阿部次郎全集 阿部次郎全集 岩波書店	福村出版 5冊 昭48 三、二、一、	西哲叢書
23 三木金全集 三木金全集 岩波書店	創文社 15冊 昭32 五、四、三、二、一、	西哲叢書
24 邦辯哲郎全集 邦辯哲郎全集 岩波書店	創文社 5冊 昭40 五、四、三、二、一、	西哲叢書
25 第17巻(年譜・総目次) 阿部次郎全集 岩波書店	岩波書店 18冊 昭35 五、四、三、二、一、	西哲叢書
26 高橋里美全集 田中美知太郎全集 岩波書店	岩波書店 19冊 昭41 四、三、二、一、	西哲叢書
27 藤井武全集 藤井武全集 岩波書店	岩波書店 14冊 昭41 五、四、三、二、一、	西哲叢書
28 波多野精一全集 波多野精一全集 岩波書店	岩波書店 10冊 昭48 五、四、三、二、一、	西哲叢書
29 植村正久とその時代 植村正久とその時代 岩波書店	岩波書店 6冊 昭47 五、四、三、二、一、	西哲叢書
30 三谷隆正全集 三谷隆正全集 岩波書店	岩波書店 8冊 昭24 六、五、四、三、二、一、	西哲叢書
31 矢内原忠雄全集 矢内原忠雄全集 岩波書店	岩波書店 7冊 昭41 六、五、四、三、二、一、	西哲叢書
32 理想社既刊17冊 岩波書店	岩波書店 5冊 昭47 吾、三、二、一、	西哲叢書
33 朝小三郎創文社既刊17冊 岩波書店	岩波書店 4冊 昭48 二、一、	西哲叢書
34 朝小三郎創文社既刊17冊 岩波書店	岩波書店 3冊 昭50 三、二、一、	西哲叢書
35 朝小三郎創文社既刊17冊 岩波書店	岩波書店 6冊 昭50 三、二、一、	西哲叢書
36 朝小三郎創文社既刊17冊 岩波書店	岩波書店 7冊 昭52 五、四、三、二、一、	西哲叢書
37 朝小三郎創文社既刊17冊 岩波書店	岩波書店 14冊 昭41 五、四、三、二、一、	西哲叢書
38 朝小三郎創文社既刊17冊 岩波書店	岩波書店 10冊 昭47 四、三、二、一、	西哲叢書
39 朝小三郎創文社既刊17冊 岩波書店	岩波書店 15冊 昭48 五、四、三、二、一、	西哲叢書
40 朝小三郎創文社既刊17冊 岩波書店	岩波書店 10冊 昭48 五、四、三、二、一、	西哲叢書
41 朝小三郎創文社既刊17冊 岩波書店	岩波書店 14冊 昭48 五、四、三、二、一、	西哲叢書
42 朝小三郎創文社既刊17冊 岩波書店	岩波書店 10冊 昭48 五、四、三、二、一、	西哲叢書
43 朝小三郎創文社既刊17冊 岩波書店	岩波書店 14冊 昭48 五、四、三、二、一、	西哲叢書
44 朝小三郎創文社既刊17冊 岩波書店	岩波書店 10冊 昭48 五、四、三、二、一、	西哲叢書
45 朝小三郎創文社既刊17冊 岩波書店	岩波書店 14冊 昭48 五、四、三、二、一、	西哲叢書
46 朝小三郎創文社既刊17冊 岩波書店	岩波書店 10冊 昭48 五、四、三、二、一、	西哲叢書
47 朝小三郎創文社既刊17冊 岩波書店	岩波書店 14冊 昭48 五、四、三、二、一、	西哲叢書
48 朝小三郎創文社既刊17冊 岩波書店	岩波書店 10冊 昭48 五、四、三、二、一、	西哲叢書
49 朝小三郎創文社既刊17冊 岩波書店	岩波書店 14冊 昭48 五、四、三、二、一、	西哲叢書
50 朝小三郎創文社既刊17冊 岩波書店	岩波書店 10冊 昭48 五、四、三、二、一、	西哲叢書
51 朝小三郎創文社既刊17冊 岩波書店	岩波書店 14冊 昭48 五、四、三、二、一、	西哲叢書
52 朝小三郎創文社既刊17冊 岩波書店	岩波書店 10冊 昭48 五、四、三、二、一、	西哲叢書
53 朝小三郎創文社既刊17冊 岩波書店	岩波書店 14冊 昭48 五、四、三、二、一、	西哲叢書
54 朝小三郎創文社既刊17冊 岩波書店	岩波書店 10冊 昭48 五、四、三、二、一、	西哲叢書
55 朝小三郎創文社既刊17冊 岩波書店	岩波書店 14冊 昭48 五、四、三、二、一、	西哲叢書
56 朝小三郎創文社既刊17冊 岩波書店	岩波書店 10冊 昭48 五、四、三、二、一、	西哲叢書
57 朝小三郎創文社既刊17冊 岩波書店	岩波書店 14冊 昭48 五、四、三、二、一、	西哲叢書
58 朝小三郎創文社既刊17冊 岩波書店	岩波書店 10冊 昭48 五、四、三、二、一、	西哲叢書
59 朝小三郎創文社既刊17冊 岩波書店	岩波書店 14冊 昭48 五、四、三、二、一、	西哲叢書
60 朝小三郎創文社既刊17冊 岩波書店	岩波書店 10冊 昭48 五、四、三、二、一、	西哲叢書
61 朝小三郎創文社既刊17冊 岩波書店	岩波書店 14冊 昭48 五、四、三、二、一、	西哲叢書
62 朝小三郎創文社既刊17冊 岩波書店	岩波書店 10冊 昭48 五、四、三、二、一、	西哲叢書
63 朝小三郎創文社既刊17冊 岩波書店	岩波書店 14冊 昭48 五、四、三、二、一、	西哲叢書
64 朝小三郎創文社既刊17冊 岩波書店	岩波書店 10冊 昭48 五、四、三、二、一、	西哲叢書
65 朝小三郎創文社既刊17冊 岩波書店	岩波書店 14冊 昭48 五、四、三、二、一、	西哲叢書
66 朝小三郎創文社既刊17冊 岩波書店	岩波書店 10冊 昭48 五、四、三、二、一、	西哲叢書
67 朝小三郎創文社既刊17冊 岩波書店	岩波書店 14冊 昭48 五、四、三、二、一、	西哲叢書
68 朝小三郎創文社既刊17冊 岩波書店	岩波書店 10冊 昭48 五、四、三、二、一、	西哲叢書
69 朝小三郎創文社既刊17冊 岩波書店	岩波書店 14冊 昭48 五、四、三、二、一、	西哲叢書
70 朝小三郎創文社既刊17冊 岩波書店	岩波書店 10冊 昭48 五、四、三、二、一、	西哲叢書
71 朝小三郎創文社既刊17冊 岩波書店	岩波書店 14冊 昭48 五、四、三、二、一、	西哲叢書
72 朝小三郎創文社既刊17冊 岩波書店	岩波書店 10冊 昭48 五、四、三、二、一、	西哲叢書
73 朝小三郎創文社既刊17冊 岩波書店	岩波書店 14冊 昭48 五、四、三、二、一、	西哲叢書

108 107 ジャンメル カント実践理性批判	106 105 ライブニツ形而上学教説	104 103 リップツ先カントの哲学	103 102 リップツ先カントの哲学	101 100 リップツ先カントの哲学	99 98 リップツ先カントの哲学	97 96 リップツ先カントの哲学	95 94 リップツ先カントの哲学	93 92 リップツ先カントの哲学	91 90 リップツ先カントの哲学	88 87 リップツ先カントの哲学	88 86 リップツ先カントの哲学	88 85 リップツ先カントの哲学	88 84 リップツ先カントの哲学	88 83 リップツ先カントの哲学	88 82 リップツ先カントの哲学	88 81 リップツ先カントの哲学	88 80 リップツ先カントの哲学	79 78 リップツ先カントの哲学	78 77 リップツ先カントの哲学	78 76 リップツ先カントの哲学	78 75 リップツ先カントの哲学	78 74 リップツ先カントの哲学	78 73 リップツ先カントの哲学
109 108 ジャンメル カント実践理性批判	107 106 リップツ先カントの哲学	105 104 リップツ先カントの哲学	104 103 リップツ先カントの哲学	103 102 リップツ先カントの哲学	102 101 リップツ先カントの哲学	101 100 リップツ先カントの哲学	100 99 リップツ先カントの哲学	99 98 リップツ先カントの哲学	98 97 リップツ先カントの哲学	97 96 リップツ先カントの哲学	96 95 リップツ先カントの哲学	95 94 リップツ先カントの哲学	94 93 リップツ先カントの哲学	93 92 リップツ先カントの哲学	92 91 リップツ先カントの哲学	91 90 リップツ先カントの哲学	90 89 リップツ先カントの哲学	89 88 リップツ先カントの哲学	88 87 リップツ先カントの哲学	87 86 リップツ先カントの哲学	86 85 リップツ先カントの哲学	85 84 リップツ先カントの哲学	84 83 リップツ先カントの哲学
110 109 ジャンメル カント実践理性批判	111 110 ジャンメル カント実践理性批判	112 111 ジャンメル カント実践理性批判	113 112 ジャンメル カント実践理性批判	114 113 ジャンメル カント実践理性批判	115 114 ジャンメル カント実践理性批判	116 115 ジャンメル カント実践理性批判	117 116 ジャンメル カント実践理性批判	118 117 ジャンメル カント実践理性批判	119 118 ジャンメル カント実践理性批判	120 119 ジャンメル カント実践理性批判	121 120 ジャンメル カント実践理性批判	122 121 ジャンメル カント実践理性批判	123 122 ジャンメル カント実践理性批判	124 123 ジャンメル カント実践理性批判	125 124 ジャンメル カント実践理性批判	126 125 ジャンメル カント実践理性批判	127 126 ジャンメル カント実践理性批判	128 127 ジャンメル カント実践理性批判	129 128 ジャンメル カント実践理性批判	130 129 ジャンメル カント実践理性批判	131 130 ジャンメル カント実践理性批判	132 131 ジャンメル カント実践理性批判	133 132 ジャンメル カント実践理性批判
134 133 ジャンメル カント実践理性批判	135 134 ジャンメル カント実践理性批判	136 135 ジャンメル カント実践理性批判	137 136 ジャンメル カント実践理性批判	138 137 ジャンメル カント実践理性批判	139 138 ジャンメル カント実践理性批判	140 139 ジャンメル カント実践理性批判	141 140 ジャンメル カント実践理性批判	142 141 ジャンメル カント実践理性批判	143 142 ジャンメル カント実践理性批判	144 143 ジャンメル カント実践理性批判	145 144 ジャンメル カント実践理性批判	146 145 ジャンメル カント実践理性批判	147 146 ジャンメル カント実践理性批判	148 147 ジャンメル カント実践理性批判	149 148 ジャンメル カント実践理性批判	150 149 ジャンメル カント実践理性批判	151 150 ジャンメル カント実践理性批判	152 151 ジャンメル カント実践理性批判	153 152 ジャンメル カント実践理性批判	154 153 ジャンメル カント実践理性批判	155 154 ジャンメル カント実践理性批判	156 155 ジャンメル カント実践理性批判	157 156 ジャンメル カント実践理性批判

146 145 144 津田左右吉全集 文化批判の研究	16 儒教の研究	143 津田左右吉全集 左伝の思想史的研究	144 津田左右吉全集 文化批判の研究	145 津田左右吉全集 文化批判の研究	146 津田左右吉全集 文化批判の研究	111 ベルグリン哲学 主体と超越	112 キルケゴー尔著作集 エマソン選集	113 ショーラム著作集 (第1卷)	114 存在と意味	115 実存と所有	116 人間と実存	117 大塚博士講義集	118 現代美学思潮	119 現代美学思潮	120 美学	121 風雅論	122 開拓者	123 万葉集の自然感情	124 美のかたち	125 表現愛	126 美学総論	127 芸術史の哲学	128 芸術哲學	129 芸術の哲学	130 フィードレル	131 テヌス	132 美学論集(上)	133 美学	134 美学	135 ルカーチ	136 クライスの美学	137 外山卯三郎	138 大西克礼	139 大西克礼	140 大西克礼	141 大西克礼	142 大西克礼	143 大西克礼	144 大西克礼	145 大西克礼	146 大西克礼	147 大西克礼	148 小川圭治	149 下程勇吉	150 山内得立	151 九鬼周造	152 金子馬治	153 大西克礼	154 大西克礼	155 大西克礼	156 木村素衛	157 植田寿藏	158 田辺元	159 金田廉誠	160 岩波書店	161 岩波書店	162 岩波書店	163 岩波書店	164 岩波書店	165 岩波書店	166 岩波書店	167 岩波書店	168 岩波書店	169 岩波書店	170 岩波書店	171 岩波書店	172 岩波書店	173 岩波書店	174 岩波書店	175 岩波書店	176 岩波書店	177 岩波書店	178 岩波書店	179 岩波書店	180 岩波書店	181 岩波書店	182 岩波書店	183 岩波書店	184 岩波書店	185 岩波書店	186 岩波書店	187 岩波書店	188 岩波書店	189 岩波書店	190 岩波書店	191 岩波書店	192 岩波書店	193 岩波書店	194 岩波書店	195 岩波書店	196 岩波書店	197 岩波書店	198 岩波書店	199 岩波書店	200 岩波書店	201 岩波書店	202 岩波書店	203 岩波書店	204 岩波書店	205 岩波書店	206 岩波書店	207 岩波書店	208 岩波書店	209 岩波書店	210 岩波書店	211 岩波書店	212 岩波書店	213 岩波書店	214 岩波書店	215 岩波書店	216 岩波書店	217 岩波書店	218 岩波書店	219 岩波書店	220 岩波書店	221 岩波書店	222 岩波書店	223 岩波書店	224 岩波書店	225 岩波書店	226 岩波書店	227 岩波書店	228 岩波書店	229 岩波書店	230 岩波書店	231 岩波書店	232 岩波書店	233 岩波書店	234 岩波書店	235 岩波書店	236 岩波書店	237 岩波書店	238 岩波書店	239 岩波書店	240 岩波書店	241 岩波書店	242 岩波書店	243 岩波書店	244 岩波書店	245 岩波書店	246 岩波書店	247 岩波書店	248 岩波書店	249 岩波書店	250 岩波書店	251 岩波書店	252 岩波書店	253 岩波書店	254 岩波書店	255 岩波書店	256 岩波書店	257 岩波書店	258 岩波書店	259 岩波書店	260 岩波書店	261 岩波書店	262 岩波書店	263 岩波書店	264 岩波書店	265 岩波書店	266 岩波書店	267 岩波書店	268 岩波書店	269 岩波書店	270 岩波書店	271 岩波書店	272 岩波書店	273 岩波書店	274 岩波書店	275 岩波書店	276 岩波書店	277 岩波書店	278 岩波書店	279 岩波書店	280 岩波書店	281 岩波書店	282 岩波書店	283 岩波書店	284 岩波書店	285 岩波書店	286 岩波書店	287 岩波書店	288 岩波書店	289 岩波書店	290 岩波書店	291 岩波書店	292 岩波書店	293 岩波書店	294 岩波書店	295 岩波書店	296 岩波書店	297 岩波書店	298 岩波書店	299 岩波書店	300 岩波書店
-----------------------------	----------	-----------------------	---------------------	---------------------	---------------------	-------------------	----------------------	--------------------	-----------	-----------	-----------	-------------	------------	------------	--------	---------	---------	--------------	-----------	---------	----------	------------	----------	-----------	------------	---------	-------------	--------	--------	----------	-------------	-----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	---------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------

柴山全慶老師輯

## 四柱推命学句集

A6 四五六頁  
一、五〇〇円 二、一六〇円

西部文淨著

## 茶席の禅語

B6 四三六頁  
二、〇〇〇円 二、一〇〇円

下

604 京都市中京区寺町通三条北

電話 (〇七五) 二三二一九七一番  
振替 京都 五三八番  
大判/堅牢上製本/ケイ  
ス入/総1150頁/早見  
式例を併載して詳細に解説した唯一の書。表付録2枚付

併用書『阿部泰山全集第一巻「万年曆」』

■定価13,000円

堂

## 四柱推命学事典

亀石厓風・著

わが国初刊行の専門事典!

A5判/堅牢上製本/ケイ  
ス入/総1150頁/早見  
式例を併載して詳細に解説した唯一の書。表付録2枚付

併用書『阿部泰山全集第一巻「万年曆」』

■定価13,000円

## 阿部泰山全集 全22巻

■各巻2,500円

「阿部泰山全集」のサブリーダーとして、初心者・研究者に好評の書。

## 四柱推命学の要訣

■定価4,500円

伊藤泰苑・著

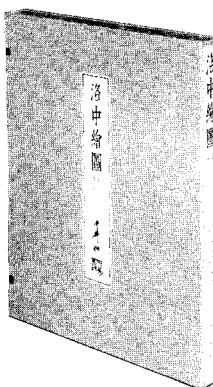
京都書院

604 京都市中京区堀川通三条上ル  
電(075) 841-9123・振替京都663

京都大学附属図書館秘蔵・中井家旧蔵

# 洛中繪圖

寛永・萬治以前 全七四図



近世京都は、天正期に秀吉が行なつた市中の再編成により大きく発展した。本絵図は、それから半世紀後の寛永二十年前後の洛中の形態を忠実に地図として製作された縦六・三一五・横三・一〇八メートルの大図で四分方眼ヘル押線を基準に墨書きで、お土居を中心とした洛中図を精細に描写したものである。

十年前 現存する京都市中地図の最古のものとして公刊され注目を集めめた、宮内庁書陵部蔵の寛永十四年洛中絵図を下絵として製作された本絵図は、鴨川辺や島原等をも含み、また、公家、大名、諸寺、医師、検校らを色分けするなど一層整備、補正されており、近世京都の歴史・地誌を知る上で不可欠の資料である。

9月20日刊行  
予約受付中

- ▼限定四〇〇部
- 単色コロタイプ刷原寸大区分図(60×48cm)六九葉
- 彩色コロタイプ刷縮尺全体図二葉
- 割付基準線付縮尺全体図二葉 (製作=便利堂)
- ▼収納帙/極上本麻切四手帙一枚式仕立(61×49cm)
- ▼別冊解説/京都大学教授川上貢著/A5判24頁
- ▼定価/七二〇〇〇円(54年9月30日締切)
- ▼分割払価格/七・六六〇〇円×10回(合計七六、〇〇〇円 年率12%)
- ▼詳細内容見本をご請求下さい。

臨川書店 本社 東京支店 千代田区飯田橋四一七一六号ビル

03-263-4320 03-781-6166

思文閣出版

京都市左京区今出川通川端東入50M  
東京都千代田区三崎町二一〇/〇三一六三三四八

三宅清 編纂

# 新編富士谷御杖全集 全八卷

戦前国民精神文化研究所から出版された「富士谷御杖集」五巻に、御杖自筆

本・御杖の修行時代のノート類の影印など新資料を加え全八巻として集大成。父成章の文法学・歌学・解釈学と伯父皆川淇園の易学研究に基づく漢字等、当時の卓越した学問をどのように吸收消化し、思弁的とされる御杖独自の解釈学・歌学を樹立したか、さらに古事記万葉を始めとする古典への彼の深い研究を知る絶好の資料である。

- |  |
|--|
| 第一巻 古事記研究・神道研究(第六回配本)/第二巻 万葉集・隨筆(第六回配本)/第三巻 注釈・燈(第四回配本)/第四巻 注釈・歌論(第五回配本)/第五巻 歌論・歌集(第三回配本)/第六巻 歌集(第七回配本)/第七巻 言語(第二回配本)/第八回配本) |
| 回配本/第六巻 歌集(第七回配本)/第七巻 言語(第二回配本)/第八回配本)   |
| 回配本/第六巻 歌集(第七回配本)/第七巻 言語(第二回配本)/第八回配本)   |
| 回配本/第六巻 歌集(第七回配本)/第七巻 言語(第二回配本)/第八回配本)   |
| 回配本/第六巻 歌集(第七回配本)/第七巻 言語(第二回配本)/第八回配本)   |
| 回配本/第六巻 歌集(第七回配本)/第七巻 言語(第二回配本)/第八回配本)   |
| 回配本/第六巻 歌集(第七回配本)/第七巻 言語(第二回配本)/第八回配本)   |
| 回配本/第六巻 歌集(第七回配本)/第七巻 言語(第二回配本)/第八回配本)   |

# 京からかみ 文様譜

木下桂風著

著者が、金の製作および鑑定の権威であった大西淨長翁の家宝である金図録、さらに金師諸氏所蔵の古文書類を比較検討して金師評伝を編纂。昭和二十八年に上梓したものを此度再刊。

A5判・総頁三六八頁(図版多数)・上製本函入/定価三、五〇〇円

- 八月中旬刊行予定
- 久米康生編著
- ▼A3判・二〇〇頁・図版二六〇点
- ▼特装本定価 四九、〇〇〇円(美物見本十点付・もみ紙袋軸入百部限定・番号入り)